

## 経済学演習Ⅱ

必修 2単位

高井 正

### 1. 授業の概要(ねらい)

この講座は、①財政に関する文献の輪読、②財政の諸課題をテーマとする院生自らの手による資料収集・レジュメの作成・ゼミでの発表・討論、などを通じて財政問題に対する分析能力を高めるとともに、修了後の社会生活におけるプレゼンテーション能力を身につけることを目的とする。  
この講座は、こうした財政学の視点から現代の財政問題について考察する後期の演習である。

### 2. 授業の到達目標

- ・院生が、プレゼンテーション・討論を通じて、実社会で必要となる資料の作成・発表能力を修得する。
- ・院生が、現代社会における財政の役割を説明できる。
- ・院生が、現代財政が抱える課題を分析できる。

### 3. 成績評価の方法および基準

報告・討論などの授業への貢献度(20%)、先行研究の抽出・分析(20%)、期末課題レポート(60%)などを踏まえて、総合的に評価する。

なお、出席率が2/3未満の学生は、元々「成績評価の対象外」(不合格)であるので注意すること。

### 4. 教科書・参考文献

教科書

神野直彦 『財政学[改訂版]』、2007年 有斐閣

### 5. 準備学修の内容

- ・テキストによる予習
- ・報告担当時におけるレジュメの作成
- ・報告担当外の場合の討論コメントの作成
- ・期末課題レポートの作成

### 6. その他履修上の注意事項

- ・修士論文のテーマが「財政学に関するもの」であること。
- ・大学の学部で「財政学」の単位を「取得済」であること。
- ・大学院の1年次の配当科目である「地方財政論特講Ⅰ・Ⅱ」の講義を履修すること。
- ・春学期の講座である「経済学演習Ⅰ」との連続履修をすること。
- ・私語をしている場合は、退席を求める場合もある。

### 7. 授業内容

- 【第1回】 ガイダンスー前期の総括と後期の概要、各ゼミ生の役割分担の決定
- 【第2回】 「貨幣支出としてのアウトプット」の発表・討論
- 【第3回】 「3つのサブシステムと公共支出」の発表・討論
- 【第4回】 「オプションとしての公債と公債原則」の発表・討論
- 【第5回】 「地方財政と中央財政①—複数の「政府」」の発表・討論
- 【第6回】 「地方財政と中央財政②—複数政府の変遷」の発表・討論
- 【第7回】 「地方財政の理論と実際①—地方税の課税形態」の発表・討論
- 【第8回】 「地方財政の理論と実際②—財政調整制度」の発表・討論
- 【第9回】 「政府としての社会保障基金①—社会保障とは」の発表・討論
- 【第10回】 「政府としての社会保障基金②—社会保障の現実」の発表・討論
- 【第11回】 「公企業と財政投融资」の発表・討論
- 【第12回】 「財政の過去から未来へ①—産業の変遷」の発表・討論
- 【第13回】 「財政の過去から未来へ②—市場経済のグローバル化」の発表・討論
- 【第14回】 後期の総括、期末課題レポートの出題【オンライン・追加授業】
- 【第15回】 期末課題レポートの評価・講評